

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/8/20 ~ 2017/8/31)

### 1. 勉学の状況

ウダヤナ大学の授業が始まる前の5日間、私はまず英語研修を行いました。毎日90分×5コマのワンツーマンレッスンをし途中から疲れて、だれてしまうこともありましたが、バリ人の英語教師とのレッスンはとても勉強になりました。英語だけでなく、バリの文化や習慣、バイクタクシーの使い方、ウダヤナ大学のことなども教えてもらうことができました。英語も少しは上達したかと思います。

そして、30日、31日とウダヤナ大学で授業がありました。初日は手続きの関係でばたばたしましたが、何とか“Money Management”と“Asian Economy”の授業を受けました。授業はバリ人の先生が英語で教えてくれましたが、6割くらいしか把握できませんでした。経済の授業なのでお金で説明してくれるのですが、10 billion ルピアと言われても、どれだけの金額か把握するのに少し時間がかかってしまいます。ヨーロッパの生徒が大半なのでユーロでも教えてくれますが、よく分かりません。その理解している時間に先生の話についていけなくなってしまいました。これから分数や比なども出てくると思うので、英語での数字表現をしっかり勉強しておきたいです。31日は“Tourism Marketing”のみで、午後からの授業はWelcome Ceremonyのため出席できませんでしたが、観光学の授業を始めて受けることができました。授業内容としては、バリ島が抱える環境やごみ、交通渋滞といった問題点を解決するにはどうしたらいいのか？を考え発表するものでした。自分の考えを英語で表現するのが難しかったですが、楽しみにしていた授業を受けられて嬉しかったです。

まだ初回なので、全体的にそこまで深いことは学びませんでしたが、想像していたよりも時間があるので、英語の勉強はもちろん、色んなところに行って実際に体験していきたいです。



↑ウダヤナ大学 Jimbaran Campus  
国際教育センターのようなもの (CIP office)



↑ウダヤナ大学 Denpasar Campus  
Welcome Ceremony をした建物

## 2. 生活の状況

ウダヤナ大学のキャンパスまで歩いて 20 分弱ほどかかる所に宿泊しています。宿泊場所は快適ですが、周辺に日用品を売っている店がありませんので、バスタオルなどを買うのに 20 分近く歩いて行かなければなりません。バイクが最も使われている移動手段なので、徒歩だと不便に感じることもあります。歩道や横断歩道が無かったり、あったとしても草木で通れなくなっていたり、タイヤによる砂ぼこりが直接目にきたりします。遠くに行くときは Grab や GoJek といったバイクタクシーを使っています。また物価が安いので、毎食高くても 400 円程度で食べられ嬉しいです。バリ島の料理は辛いので時々しか食べませんが、お米が主食なので、今のところ日本食が恋しくなることもなく過ごせています。日本よりもお金の桁数が 2 つ大きいので、どの紙幣が何ルピアなのか、この商品は何ルピアなのか、といったことでまだ困惑してしまっています。いちいち桁数を確認しなくてもいいように、早く慣れていきたいです。

バリにきて 10 日程経ち、最初は戸惑っていたトイレやランドリーの使い方、蚊やハエ、バリ島の建物の景色に少し慣れてきました。8 月はバリや宿周辺の環境に馴染むのに時間がかかり、あまり観光する時間がなかったので 9 月はどんどん観光していきたいです。

バリ人の英語教師に、私のシンガポールの友人がバリに来るのを嫌がっているのは、書類上の手続きのために何度も役所に行かなくてはならず面倒だからです。と教えてもらいましたが、今それを、実感しています。ビザの書類関係や授業関係で新たに知った情報も多いです。メールでのやり取りでは不自由に思うことが稀にありますが、バリ人はフレンドリーで優しいので困っていると、声をかけ助けてくれます。なのでコミュニケーションをとりつつ、一つ一つ確実に取り組んでいきたいと思っています。



↑ サヌールのビーチ

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/9/1 ~ 2017/9/30)

### 1. 勉学の状況

授業が始まりおよそ1ヵ月が経ち、ウダヤナ大学での授業スタイルに慣れてきました。決められた時間で授業をするというより、その日にやるべき内容を重視して、先生たちは授業をしている気がします。なので、先生によって授業が終わる時間が大きく変わります。早く終わることが多いので嬉しいですが。また、授業は定義や基礎的なことを教え、演習はレポート課題として出されることが多いです。日本では演習や実例まで、ある程度先生が解説してくれることが多かったのですが、いきなり実践で課題が出されるので課題に時間がかかります。実際の企業を選び、その財務諸表を分析する課題が出たときはとても難しかったです。

次に、先生の英語ですが発音を聞き取るのが困難な時があります。事前の英語研修で、バリ人の英語に慣れようと思っていたのですが、今考えれば英語研修の先生はとてもきれいな発音で、バリ英語とは違っていました。ウダヤナ大学の先生はローマ字読みで単語を読むことがあり、文字を見ないと何と言っているのか分からないことがあります。授業のスライド私に送ってくれるように頼んでいるので、それを見ながら復習しています。さらに、10月からは現地の生徒に交じって英語の授業に参加させてもらえるようになったので、英語の向上とともに現地の生徒との交流も増やし、バリ英語に慣れていきたいです。

観光学では“Sustainable Tourism”という授業で、バリ・ヒンドゥー教の思想である *Tri Hita Karana* を取り入れた懸賞プログラムの *Tri Hita Karana Award Program* について学ぶ機会がありました。プログラムが生まれた経緯や審査の基準などを細かく学ぶことができました。このプログラムは留学研究計画のテーマにしていたので、授業を受けるのが楽しかったです。“Tourism Product”という授業では Dark Tourism、Suicide Tourism、Wildlife Tourism といった Tourism の種類について学んでいます。どんなことでも Tourism につながり、Tourism の幅の広さを感じました。



↑ “Money Management” と “Asian Economy” の教室



↑ 大学内でもゴミは燃やされています

## 2. 生活の状況

まず、バリ北東部のアグン山が噴火する可能性が高まっている、ということの影響についてお伝えします。私が住んでいるバリ南部はアグン山から90km程離れているからなのか、地元の住民はいつもと変わらない日々を過ごしています。アグン山付近では地震があるそうですが、私は感じたこともありませんし、ビーチは普段通り観光客で溢れています。一方、大学では避難している人たちのために募金箱を設置したり、寄付を募ったりしています。念のため、私はマスクを買いました。しっかりと情報収集をしつつ、噴火に備えていきたいと思います。

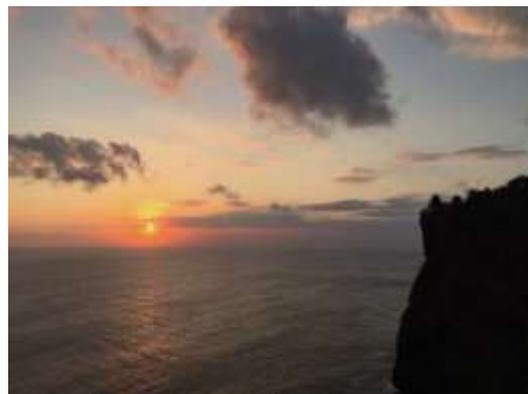
バリに来て35日目の朝、初めて雨を見ました。7時過ぎに雨の音で目が覚めました。溜まっていたのが一気に解放されたように、たった20分くらいですが、降り続けていました。それから何度か、朝方に15分ほど降ってその後は太陽が照る暑い日があり、これが熱帯地の雨かと感じながら生活しています。10月下旬から雨季になるらしいので、使い物になるか不安ですが折り畳み傘を携帯するつもりです。

食生活では、ワルンという地元の小さな食堂があちこちにあり安いのですが、あるワルンで食べると衛生的に悪いのか、お腹を壊してしまいます。そこではもう食べないようになりましたが、地元の生活を体験するためにも、いろんな食材に挑戦していきたいと考えています。また、水を買うのに、少しでも安い店を見つけては買いためする日々が続いています。店によって同じ商品でも値段が倍になることがあるので、どれをどこで買うのが効率的か考えながら買っています。

最後に、ようやく書類関係が一段落しました。これでのびのびと生活できます。バリ島は実際のところ、法のグレーゾーンが多い気がしますが、こちらに落ち度がないようにしていきたいです。



↑クタビーチ



↑ウルワツ寺院からみた夕日

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/10/1 ~ 2017/10/31)

### 1. 勉学の状況

授業は今までと変わりませんでした。10月は中間試験がありました。重要なテストですがまだ中間試験なので、テキストの持ち込みが認められる授業があったり、他の生徒たちが机の下でコソコソと携帯を使っていたり、緩い印象を受けました。そんな中、私は自分のことで精一杯でした。英語で解答すること自体が難しく、きちんと相手が理解できるように伝わったか不安です。

簡単に印象に残っている試験内容をお伝えします。“Money Management”の試験では、Annuity Due(期首払込金)やFinancial Riskの問題が出て、ちんぷんかんぷんでした。日本語で調べて勉強してみてもよく分からないので、もっとちゃんと日本で経済学、財政学の勉強をしておけばよかったと後悔しています。“Asian Economy”の問題はシンガポールと韓国はどうやってリッチになったのか、石油の価格が下がるとインドネシアにとって有益か脅威か、といったものでした。

“Tourism Marketing”では、マーケティングはなぜ重要なのかを書いたり、マーケティングの歴史をProduction Orientation Era(需要が供給を上回り、消費者のニーズは二の次で生産を重視していた時代1920-30)からOnline Marketing Orientation Era(インターネット上で予約やメールができるようになり、e-ticketsが増えた時代1995-)までの流れを説明したりする問題が出ました。“Tourism Product”では、Dark Tourismはどういうものか説明し、それによりどういう負の影響があると考えられるか、Wildlife Tourismがなぜ重要なのか、Tourism Productに必要な要素は何か、といった問いが出ました。観光学の試験は、あらゆる視点から観光について考えないといけないので面白く、将来へのいい訓練になると思います。

“Bahasa Indonesia”というインドネシア語の試験は、まだ自己紹介や数字、曜日などしか学んでおらず、留学前に私は少しインドネシア語を学んでいたため、難しくありませんでした。

全体的にまだまだ勉強不足だなと感じた試験でした。講義を頭で理解するだけでなく、自分の英語で説明できるようにならないと意味が無いと痛感しました。他の生徒は解答用紙3枚くらい書いていても、自分は書きたいことを上手く表現できず簡単な英語になってしまい、2枚弱くらいしか書けない試験が多々ありました。期末試験ではそんな思いをしないように、英語の勉強も続けていきたいです。

### 2. 生活の状況

まず、体調面について書きたいと思います。めばちこ、になってしまい初めて海外の病院に行ってきました。ちょうど試験の1週間前に腫れてしまいしんどかったです。治るまでほっておこうと思いましたが、あまりに耐えられなかったので試験前日に病院へ行き痛み止めや薬をもら

いました。薬をもらおうと痛みはなくなりましたが、完治するまで2週間程かかってしまい、ずっと眼鏡での生活を強いられました。コンタクトは日本にいるときよりも注意して洗ってきたつもりだったのですが、思っていた以上に、空気が汚れていたり、バイクに乗せてもらっていると砂ぼこりが目に入ってきたりするのかなと思います。また、体調面で不安があれば遠慮せずに病院に行くことが大事だと改めて思いました。

中間試験後は休みがあり、今も休暇の最中です。なので、部屋の掃除をしたり、髪を切りに行ったり、いろいろと地元の友達のオススメの場所やタナロット寺院、ヌサドゥアといった観光地に連れて行ってもらったりしています。さらに、友達に安いワルン(食堂)を紹介してもらいました。日本だったら入らないだろうなと思うほどハエがうっとうしかったのですが、量もあり味もおいしかったです。

バリで驚いたのは、出稼ぎのためにバリ島に来ているジャワ人やロンボク島、カリマンタン島といった周りの島出身の人が多ということ。バイクタクシーに乗った際にいつも訊いているのですが、半分くらいの人がバリ人ではないようです。その人たちも、バリにきて酒を飲むようになったり、宗教的な服装に気をつけなくなったりしているようで、バリのほうが住みやすいと言っていました。さらに、野良犬が予想以上に至る所にいます。気にせず歩いていると大抵、犬も無視してくれるのですが、犬が興奮していると吠えて後をついてくるのが時々あるので怖いです。また、歩道に歩行者はいないと思っているのか、渋滞の時はバイクが歩道を走ってきたり、バイクが歩道に入る前に停止しないので急に横から出てきたりします。

最後に、授業が再開する時にすぐに新しいことを理解できるように、しっかりと復習し気持ちを切り替えて臨みたいと思います。



↑ オススメされたビーチ (Pantai Suluban)  
(左右の岩の上はハウルの動く城のように  
レストランやお店が重なっています)



↑ Pantai Suluban (上からみた写真)

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/11/1 ~ 2017/11/30)

### 1. 勉学の状況

授業が再開しましたが、最近は少し怠けてしまっています。登校しても急に授業がなくなったりすることが多く、やる気が萎えてしまいます。課題も後回しにして締め切り間際に取り掛かるようになってしまいました。残り少ないバリでの生活を楽しまつつ、真面目に取り組んでいきます。

“Sustainable Tourism”の講義で、バリは交通渋滞やゴミのポイ捨てといった問題が起きていますが、その原因の一つに観光客の数が挙げられます。それなのに、なぜまだ観光客を呼ぶ必要があるか、ということ先生が解説してくれました。理由は明確で、バリ政府はまだまだお金が必要だからです。ここからは先生の偏見もあると思いますがバリ人の観光客の捉え方の側面が知れて、印象に残っています。現在、国別のバリに来る観光客で上位がオーストラリア、中国ですが、オーストラリア人はお金を求めてバリに来る、中国人は余分なお金を使わない、と言っていました。オーストラリア人はバリでレストランやバーを経営するためにやってきて、中国人は主にパッケージツアーの団体旅行で決まった店にしか行かないからだそうです。確かに大型観光バスに乗っているのは大抵アジア人で、バックパッカーのように大きな荷物を背負って個人旅行しているのはヨーロッパ人が多いような気がします。観光産業内では経済は上手く回っているかもしれませんが、観光産業だけで発展するのも限界があり、地元の人々や政府がどう関わってくるか、どう地域に還元するかが重要だなと感じました。

最後に、もうすぐ期末試験がありバリでの生活も終わってしまうので、振り返ったときに努力したと自分で言えるように頑張りたいです。

### 2. 生活の状況

初めに、アグン山の噴火による私の状況をお伝えします。11月21日に1回目の噴火があり、25日に2回目の噴火がありました。以前書いた通り、私が住んでいるところからアグン山はかなり離れているため、噴火があっても何も変わらない生活をしています。雨期なこともあり火山灰も広範囲には広がっていないようで、マスクも必要ありません。唯一の影響と言えば、先生が空港閉鎖によって海外から帰ってこられず、授業が休講になったことくらいです。しかし、まだまだ避難者がいて大変な状況であることに変わりはないので、安心して生活できるように願うばかりです。

最近長時間、雨が降ることが多くなってきました。そのため遠くに出かけることが少なくなっています。また熱帯地の雨の日は湿度が高く、蒸し蒸ししているだろうなと思っていましたが、晴れるときには日差しは強いままなので、梅雨の時よりも快適に過ごせています。しかし雨によ

り蚊が増えたり、道路が水浸しになっていたり、通学路に毛虫が大量発生していたりして注意することもあります。

休日に、ジャワ島出身の大学の友達がホームステイしている家に遊びに行きました。ホームステイといえど個々の部屋があり、キッチンや洗濯は共同の学生用の寮といった感じでした。その時に驚いたことがあります。その友達は日本人が来たということで、隣の部屋や女性の部屋にまでノック無しで開けて私を紹介してくれました。大家さんも急に来たので顔にパックをしたまま迎え入れてくれました。いい意味では、それほど開放的でフレンドリーな関係、性格だと思いますが、プライバシーがあまりないので私はここに住めないなと感じました。

日本に帰国するためのビザ関係の手続きも始まっているので、気を引き締めてスケジュールを管理していきたいです。



↑テガラランのライステラス（棚田）



↑タマンアユン寺院